

12月



園だより

令和5年11月28日
佛教大学附属こども園

「仏教保育 12月のねらい」

にんにくじきゅう
忍辱持久

「いつか花開くことを願って」

園長 佐藤 和順

カレンダーも残り1枚となりました。立冬を過ぎても暖かい日が続きましたが、ようやく季節らしくなったように感じます。また「12月」の声を聞くと何とはなしに気忙しく感じ、周りの様子も慌ただしく思えます。園では「いっしょにあそぼうの日」に向けて、製作活動を楽しんでいます。その過程の子どもの「そのようなところまで見ているの!」という観察眼の鋭さに、「すごいなあ」と感心させられることしきりです。寒さに負けず、今年最後の月を元気に過ごしていきたいと思えます。

今月の保育の目標は「忍辱持久(にんにくじきゅう)逃げ出さず試練に立ち向かう」です。「忍辱」とは、忍耐すること、辛抱すること。「持久」とは、長い時間持ちこたえること、目的に向かって心を合わせ努力することです。私たちは生きている間に大なり小なり辛いことや苦しいことに出会います。そのような困難から逃げ出さず、自分に与えられた試練と受け止めて努力を重ねたなら、心は確実に鍛えられ、向上するに違いありません。また決して諦めず、目標に向かって努力を重ねていくことで人間的に大きく成長することを目指しましょうということです。まさに今の時代に必要な態度かもしれません。

運動会で素晴らしい演技を見せてくれた5歳児の竹馬も忍辱持久のたまものです。最初から上手に乗れる子どもはいません。落ちても落ちても繰り返し挑戦する。足の痛みを我慢して挑戦する。この態度が成果となって現れているのでしょう。また、人間は望む望まないに関わらずいろいろな困難に出会ってしまいます。それは子どもも同じです。特に集団生活である園生活では自分の思うとおりにいかないことや、我慢しなければならないことが多くあります。友達とのけんかや遊具や道具を使う順番もそうかもしれません。大人にとっては何でもないことでも、人生経験の少ない子どもにとっては一大事です。その際には、自分の意見を主張することの大切さと同様に、場面に応じて譲ることや辛抱すること、時にはしんどくても励まし、最後までやりきることの大切さを子どもと一緒に考え、伝えていきたいと思っています。

失敗と同様に、楽しいことばかりでなく困難に出会うことも子どもにとっての大切な学びです。ただそこに必要なのは、自分で解決できない事案が出た時には、「いつでも頼っておいで」「いつも見守っているからね」という保護者と子どもの、また保育者と子どもの信頼関係です。忍耐の先には必ず花が開くと信じ、日々忍辱持久に努めたいものです。

